八ヶ岳　ツルネ東稜から赤岳

十月十五日（前夜泊）

島Ｄ

これ以上の天気は望めない様な快晴の日に、ややバリエーションルートであるツルネ東稜を登った。Ｋ藤さんお勧めの二十四時間営業の銭湯（笛吹市）に前泊した。ゆっくり休める大広間は工事中ということで、料金は半額の千円。お風呂に入り、薄暗い女性専用仮眠室のリクライニングシートで短時間の睡眠。

翌日北杜市美しの森駐車場を五時に出発。ヘッドランプを付けた早朝の林道歩きは気持ちが良い。ツルネ東稜はどんな尾根だろうと気持ちが高まってゆく。先週の甲斐駒ケ岳は朝から具合が悪く、最悪のコンデションだったが、今日は普通である。

林道の終点らしき地点から登山道へ進む。枯れ沢の歩きやすい道から、ゴーロ歩き、堰堤の金属や木製梯子を登り降りする。赤いテープや堰堤の壁に書かれたしるしが頼りである。いつの間にか水流が現れる。Ｋ藤さんが古いレールの残骸を見つけた。その先が出合い小屋（青根山岳会管理）であった。薪ストーブが置かれ、板の間に十人位は寝泊りできる。

少し休憩し、いよいよツルネ東稜の取りつきを見つけに行く。川俣川に入る沢がいくつか出てくる。最初は赤岳沢、私たちは左の本谷に沿って進む。また二俣に分かれる。本谷と左から入る権現沢との間に立派な標識が立っている。進行方向には赤岳・権現岳、括弧してツルネ経由と書かれてある。立派な登山道なのだ。ここからも尾根が立ち上がっているが、険しそうである。旭岳につながる尾根である。

立派な標識になぜかちょっとがっかりしながら進むと再び小さな沢が現れる。上の権現沢である。赤いテープに促されて徒渉する。踏み跡が明確でなく、不確かな気持ちで進んでいくと尾根らしき高まりが見えてきた。

「バリエーションハイキング」の松浦氏のツルネ東稜付近の略図を参考に大岩を探す。亡くなられたお二人の方の墓標のプレートがはめ込まれている。右側には、ツルネ東稜のプレートもある。念のため、Ｋ藤さんがＧＰＳで確認する。別の大岩に「稜渓新道」のプレートも確認できた。間違いない。

意気込んで登り始める。踏み跡もあり、登山道のように登り易い。笹が茂っていたり、岩尾根だったり、柔らかいフワフワの広い尾根だったり変化に富んでいる。ルートを探し下ばかり見て歩いていると、Ｋ藤さんが、景色を見るよう促す。後ろを振り返ると、富士山が美しい裾野を広げてでんと構えて立っている。視線の右側は険しそうな天狗尾根、左側はやはり岩峰の権現岳の姿が素敵だ。歩き始めてから千メートルは登ってきたがそれ程疲労感はない。景色も最高だし、天気は申し分ない。

ハイ松の間を縫って明るい尾根にポンと出る。ここがツルネ

といぶかっていると、またもや立派な標識があり、その下に「ツルネ」の文字がある。少し先には権現岳から赤岳に続く縦走路があり、登山者が私たちを気にせず歩いている。

視界は三百六十度、赤岳はもちろん、阿弥陀岳、金峰山、瑞牆山方面も見える。時間は十時、ここまで五時間かかった。

赤岳はキレットまで下り、登り返しのコースである。それでも、その雄姿を見るとやはり登りたくなる。上部は岩だらけだが、登り甲斐がありそうだ。ツルネ東稜は誰一人合わなかったが、さすがに縦走路は登山者が多い。

落石を起こさないように、一歩ずつゆっくり慎重に登る。急登だが、あまり苦にならない。午後一時までに頂上に着けば、暗くならないうちに下山できそう。十分前に山頂に到着。山頂は大勢の人でごった返している。単独登山らしき元気な女性に記念写真のシャッターを押してもらう。K藤さんに周りの山々の解説をしてもらい、リンゴの甘煮を食べて、元気いっぱい。

長い長い真教寺尾根を下山開始。急坂ははしごと鎖の連続が一時間、歩きにくいゴロゴロ石が一時間、やっと樹林帯に入り、扇山の登返し、再び登り返して牛首山に到着。ベンチで一休みする。途中後ろを振り返ると、赤岳山頂、山頂小屋も見える。午前中歩いたツルネの尾根も確認できる。風もなく、暑くも寒くもなくとても歩きやすい日和である。少し紅葉してきたカラマツ林や笹原の間を縫って美しの森展望台を過ぎると、出発地の美しの森駐車場がはるか下に見えてくる。暗くなる前に到着することができた。「今日は十二時間コース、頑張りましたね。」とK藤さんが高齢者をほめて下さる。

膝と腰が少し痛いが、荷物を減らしたり、膝にテーピングをしたりと予防をしたのが良かった。先週の仙丈ケ岳、甲斐駒ケ岳登山も準備運動になっていたのだろう。思いがけなく赤岳にも登ることができて、自分の体に感謝、リーダーのK藤さんにも感謝である。

メンバー：K藤（CL）、島D

コースタイム：
美しの森P 5:00～出合小屋 7:15～ツルネ取りつき 7:55～
ツルネ 9:55～赤岳山頂 12:50～
牛首山 15:35～美しの森P 17:25